

# 東宝見聞録

大きな学校行事の一つ、体育祭も終わり、ひと頃はだいぶ涼しさを感じる日もできました。10月、中間考査、文化祭と行事が続きます。一つ一つの行事を悔いなく乗り越えてほしいと思います。

## 躍動！第51回体育祭



9月10日(土)、爽やかな好天のもと、鹿児島東高校第51回体育祭が行われました。鹿児島高等特別支援学校との合同では5回目ということでしたが、滞りなく全ての競技を終えることができました。3つの種目で新記録

が出るなど各種目で盛り上がりを見せました。特に夏休みから一生懸命練習に取り組んできた応援団による応援合戦や、ダンス部と有志による楽しくレッツダンスでは、両校生徒によるはつらつとした演技後の晴れやかな笑顔が印象に残りました。



最後に校長先生から「先日開催されたオリンピックと同じように、今日は皆さんからたくさんの感動と勇気を頂きました。皆さんの一つ一つの行動・姿勢・頑張る顔・友達を思いやる気持ちがこの一日でいっぱい伝わ

てきた素晴らしい体育祭でした。」と講評を頂きました。

地域の皆さま、来賓・保護者の皆さま、最後まであたたかいご声援をありがとうございました。



# 部活にズームイン!

## ～美術部編～

現在3年生1名、2年生3名の美術部員は、一人一人がキラリと輝く才能を持ち、各方面で大活躍しています。今日は、その活動の一部を紹介します。



去る7月30日(土)～31日(日)、広島で開催された第40回全国高等学校総合文化祭に2年生の前田絵実夏さんが県代表の一人として参加しました。47都道府県代表の美術部員が、お互いの作品に対する賞賛や批評を述べあい、炎天下の広島をさらに熱くたぎら

しました。

前田さん曰く、「どの作品も素晴らしかった。制作意欲がますます高まってきました!」彼女の次回作に期待が高まります。



2年 前田さん



2年 深川さん

鹿児島島の夏の始まりを告げる六月灯。六月灯には「灯籠」がないと始まらないということで、照國神社には2年生の深川夕月さんが、坂元神社には前田さんが、それぞれの持ち味を生かしたすてきな灯籠を制作し奉納しました。県内最大の人出を誇る照國神社に掲げられた深川さんの灯籠も、あいにくの雨のため坂元公民館内に展示された前田さんの灯籠も、訪れた人々が心底その雰囲気を楽しめる素晴らしい作品でした。両神社からは早速「来年もよろしくお願いします」と依頼が来ているとのこと。

先日「NPO 法人地域サポートよしのねぎぼうず」のメンバー5名とともに、2年生の北原礼優香さんが東高校近郊を巡ってきました。この活動は吉野を舞台とした「大石兵六夢物語」を演劇部がアレンジし、吉野に残るさまざまな歴史遺産を美術部が紹介するという動き出した活動です。彼女は、世界遺産「寺山の炭焼窯跡」や「関吉の疎水溝」をはじめ、東高校近くに点在する数々のパワースポットをイラストにして紹介するという美術部始まって以来のプロジェクトリーダーを務めます。



# 就職試験日前、3年生が貴重な体験!!

8月29日(月)に3年生の就職希望者が、就職活動を終えたばかりの鹿児島大学学生に面接指導を受けました。本校活性化委員会の委員を務める鹿児島大学の久保田治助准教授の提案で、今年度初めて実現したものです。各テレビ局のカメラが見つめる中、就職希望の3年生達は緊張した様子で、面接練習に臨んでいました。その時の様子を紹介した新聞記事を掲載します。

本 発行 2016年(平成28年)9月7日 水曜日 教

## 「高大連携」動き活発



模擬面接が終わり、反省点などを話し合う大学生(左)と高校生(右)の鹿児島市の鹿児島東高校

「なせこの会社を選んだのか」というのは必ず聞かれる。業界や会社は詳しく調べてほしい」「何よりもあいさつなどとの礼儀が見られる。面接官に与える第一印象がとても大事」  
8月29日、就職活動を終えたばかりの鹿児島大学4年の中村衣里さん(22)と土岐郁美さん(21)が、就職希望する同校の3年生19人を前に、自らの体験を踏まえ、面接を受ける際の注意点を説明した。この日の旨は、中村さん

## 鹿実高 体験型講座で講義体感

「いろいろなことに挑戦することが好きで、好奇心は旺盛だと思っています」  
「それは、具体的にどんなことに挑戦したいのですか」  
「すみません(質問の答えを、用意していませんでした)やりとりは録画し、模擬面接後に映像を見ながら反省点や課題を探った。大学生の2人は「いろいろなこと」という言葉を出すと、必ず具体的な内容を問われる。「表情がすぐ硬い。入室時のあいさつの際に、笑顔を見せれば印象は変わる」とアドバイスした。  
高校生らは休時間なども利用して大学生に質問。3年福吉瑞花さんは「大学生は年

鹿東高 就職面接のコツ 鹿大生伝授  
と土岐さんが面接指導を務める模擬面接。本書にのっている鹿児島大学が高校3年生に面接のポイントなどをアドバイス。高校3年生の情報は開けて、自信が「いた」と手応えを口にした。企画した鹿児島大学は「高大連携を通じて、就職や進学の意味を感じ取ってもらえれば」と期待する。  
「好奇心は旺盛な方ですか」  
大学生による面接指導は鹿児島東高校では初めての取り組み。同校活性化委員会の委員を務める鹿児島大学の久保田治助准教授(社会教育学)が提案し、実現した。  
久保田准教授は今年6月にも鹿児島実業高校(鹿児島市)の1年生を招き、「大学生になるまでにやるべきこと」をテーマに高大連携のワークショップを行った。班ごとに、出た質問をカードに書き出して整理し、結論を導き出した。高校3年生は、日頃の授業とはひと味違う大学の講義を体感した。  
高大連携について久保田准教授は「大学側も大学のことを高校生に理解してもらえたい機会」と指摘。「高校3年生は、大学で何をやるのかや就職活動の心構えなどを肌で感じることができ、学習意欲が高まるはず」と話した。(加藤武司)

(平成28年9月7日付 南日本新聞朝刊に掲載)